

種名	<u>フタモンアシナガバチ</u> <u>Polistes chinensis antennalis Perez</u> 
分類	昆虫綱ハチ目 スズメバチ科(日本には3属11種が生息)
俗称	
形態的な特徴	体長 14～18mm とセグロアシナガバチに比べて小型の種で、名前の由来は、腹部に黄色い2つの斑紋があることによる。
分布	北海道～琉球列島
繁殖行動	営巣開始時期は4月上旬頃で、1頭の越冬女王バチにより巣が創設される。生活史は1年限りで、オスバチと新女王バチの羽化する8月下旬には営巣活動を終える。女王バチが単独で巣作りをしている時期には、攻撃性はほとんどないが、働きバチの羽化後は攻撃性が増し、7月～8月の活動の最盛期にはしばしば刺傷被害が発生する。 10月～11月にかけての暖かい日に、庭などを多数の本種が飛び回っていることがあるが、これらは全てオスなので刺されることはない。
生息場所	市街地、特に周りに草地や畑などがある人家周辺で普通に見られる。
食性	幼虫の餌として、街路樹や庭木につくアオムシやケムシなどを狩る。
生息環境への配慮事項	
引用文献：wikipedia「アシナガバチ」および都市のスズメバチ より	